

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護援助論Ⅱ	NSP33_004	必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	金曜日 9:00～10:30		
授業の目的・概要	1. 加齢と疾病により引き起こされる高齢者に特有な健康問題の成り立ちと診断・治療過程の看護の要点を理解する。 2. 健康問題を持つ高齢者に対して、個々の生活過程や価値観等を踏まえた包括的視点でアセスメントし、看護過程を展開する方法を理解する。 3. 高齢者特有の健康問題に対して、様々な健康の段階における事例を、双方向型授業を用いて看護展開し、その人らしさを生かし持てる力を引き出すことが出来る看護について理解を深める事ができる。				
学習上の助言	健康問題を持つ高齢者に対して、その人らしさを生かし本人・家族の持つ力を最大限に生かすことが出来る看護について、講義と演習を中心に理解を深める。事例検討、事後課題により学修の確認を行う。授業中の疑問点については、授業中の質問・振り返り用紙・オフィスアワー等を積極的に活用し解決するように努めること。				
教科書	老年看護学技術(改訂2版)-最後までその人らしく生きることを支援する/著:正木治恵、真田弘美/南江堂/2016 生活機能からみた老年看護過程 第3版+病態・生活機能関連図/著:山田律子/医学書院/2016 [2冊指定]				
参考書	国際生活機能分類 ICF の理解と活用/人「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか/著:上田敏/きょうさん/2005 老年看護 病態・疾患論(第5版)/著:羽柴研二/医学書院/2018				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	高齢者に特有な健康問題の特性・治療・看護と、個々の生活過程等や価値観等を踏まえた包括的アセスメントの視点について説明することができる		NS(1)～(5)		
②	様々な健康問題の段階(急性期・回復期・維持期等)に応じた高齢者看護の要点に関して説明することができる		NS(3)(4)(5)		
③	目標志向型思考と問題解決型思考の双方を重要視した看護過程の展開について説明することができる		NS(1)～(5)		
④	高齢者の個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について考察できる		NS(1)～(5)		
⑤	高齢者の尊厳と生活の質(Quality Of Life<QOL>)を支える看護について考察できる		NS(1)～(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	事前事後学習内容・必要時間(時間)		
1	高齢者に対する看護過程:ICF(国際生活機能分類)と生活機能モデルの基本的な考え方を学ぶ。授業時間内および授業時間外にメール・電話で学生の質問を受ける。レポートに対してメールで個別にフィードバックする。	印刷教材等での授業	配布資料を読んだうえで、教科書で生活機能モデルの基本的な考え方と ICF について調べる。老年看護過程で生活機能モデルを使用する理由を考察しレポートを書く。	1	
2		印刷教材等での授業		1	
3	高齢者に対する看護過程:高齢者の看護過程を展開する際に必要な看護アセスメントの視点を学ぶ。授業時間内および授業時間外にメール・電話で学生の質問を受ける。レポートに対してメールで個別にフィードバックする。	印刷教材等での授業	配布資料を読んだうえで教科書の指定されたページを読み、看護過程を展開する際に必要な生活行動のアセスメントの視点について調べレポートを書く。	1	
4		印刷教材等での授業		1	
5	高齢者の疾患と看護:整形外科疾患を持つ高齢者の看護過程の要点を学ぶ。授業時間内および授業時間外にメール・電話で学生の質問を受ける。レポートに対して回答例をメールで学生に示しフィードバックする。	印刷教材等での授業	配布資料を読んだうえで教科書の指定されたページを読み、整形外科疾患を持つ高齢者事例の関連図を書く。	1	
6		印刷教材等での授業		1	
7	高齢者の疾患と看護:急性期にある高齢者の看護過程について学ぶ。授業時間内および授業時間外にメール・電話で学生の質問を受ける。レポートに対してメールで個別にフィードバックする。	印刷教材等での授業	配布資料を読んだうえで、急性期にある高齢者の特徴、看護の視点について調べ、急性期の高齢患者事例のアセスメントと関連図を書く。	1	
8		印刷教材等での授業		1	
9	高齢者の疾患と看護:脳卒中および誤嚥性肺炎の高齢患者の模擬事例をもとに、生活行動モデルを用いた看護過程展開について学ぶ。また目標志向的思考と問題解決型思考の看護について学び、状況に応じて双方の考え方を看護実践に活かす方法を学ぶ。授業時間内は、音声、チャット、メール等で学生からの質問を受ける。授業時間外はメールで質問を受ける。学生が提出した看護過程展開の記録に対し、途中経過の提出を含め、Microsoft Teams で個別的にフィードバックを返す。	印刷教材等での授業	配布資料を読み、脳卒中および誤嚥性肺炎を持つ高齢者の看護について調べたうえで、生活行動モデルを用いて模擬事例の看護過程を展開する。脳卒中および誤嚥性肺炎をもつ高齢模擬事例について、指定した用紙にアセスメント、関連図、看護計画を書いて提出する。	1	
10		同時双方向型授業		1	
11		同時双方向型授業		1	
12		同時双方向型授業		1	
13		同時双方向型授業		1	

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

14	高齢者の疾患と看護:脳卒中後遺症と生活機能障害を持つ高齢者の看護について学ぶ。	同時双方向型授業	配布資料を読み、脳卒中および高次脳機能障害を持つ高齢者患者の看護の要点を理解する。また自らが展開した模擬事例の看護過程を振り返り、修正する。	1			
15	講義のまとめ:これまでの学習を総括すると共に、今後の実習にむけて必要な知識・技術を整理する。	同時双方向型授業	今までの講義の学びを振り返り替える。	1			
試	定期試験 なし						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	100	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	35	0	0	0	35
	思考・推論・創造する力	0	35	0	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	0	5
	問題を発見・解決する力	0	25	0	0	0	25
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	講義内で課される個人課題、GW 課題について提出されたものを総合的に評価する。看護過程の展開に必要な知識、技術、思考、推論、看護援助の方向性を見出す力を中心に判断する。				Microsoft Teams、電子メール等で提出課題について個別にフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
担当教員:◎佐野 宏一朗、山崎 さやか							
教員の実務経験: 佐野は看護師として15年の実務経験。山崎は看護師として9年の実務経験。 実践的授業の内容: 実務経験のある教員の指導の元、実習および病院での看護の実際を踏まえ、高齢者への看護実践に直結する包括的なアセスメントの具体的な方法を学びます。							
本科目の単位取得は、老年看護学実習Ⅱの履修前提条件です。3年次後期からの臨地実習に向けて重要な内容を学習します。各自しっかりと予習・復習を行った上で講義に臨んでください。							
本講義の看護過程演習は、Microsoft Teams を使用した同時双方向型授業を用いて実施します。積極的に質問するなど、主体的に看護過程演習に取り組んでください。また同時双方向型授業の際は、なるべく通信環境の良い場所で授業をうけるよう留意してください。また通信量削減のため、学生はビデオ機能を基本的に使用しないように留意してください。							